

(特選)

☆年ごとに遠くなる友年賀状

良月

歳をとるにつれて年賀状のやり取りは億劫になるもの。自分から出す年賀状も友達から来る年賀状も年々少なくなってくる。寂しい限りだ。

・あかときに煌めく海や年新た

たか志

初日の出、水平線に昇ってくる太陽、さざ波の海がきらきら輝いている。新年のめでたさを詠み止めた雄大な写生句。

(入選)

- ・コーヒーの豆ひく音の二日かな 玄舟
- ・霜の原影を残して溶けにけり 繁好
- ・一心に兄の手ほどき独楽回し 繁好
- ・新年会病氣自慢の翁達 邦夫
- ・寒木瓜の小枝の先に花二輪 さよし
- ・はずむたび光こぼせり初雀 進

(佳作)

- ・風花や鳶の声澄む高みより 進
- ・遠き日の楽譜つまびく四日かな 進
- ・新年の社や笛に巫女の舞 良月
- ・日向ぼこ縁側という居場所あり 一江
- ・風花や一片二片舞つて消え 邦夫
- ・風花や廃線近き小駅舎 繁好
- ・いつまでも止まらぬ独楽やはやされて かつを
- ・相模野の夕日に映ゆる枯尾花 さよし
- ・風花や朝練の子ら走り行き 良月
- ・新年の夜明けの風を懐に 一江
- ・新年や掛軸替えて友を待ち よしまさ
- ・子らからの薄き年玉重たかり 玄舟
- ・年新た苦楽を共に又一年 邦夫
- ・銀杏散る野外音楽堂肩寄せて たか志
- ・年齢の壁を乗り越え年迎ふ 忠男
- ・楽の音のもれくる庭や日向ぼこ 進
- ・湧水の休むことなし去年今年 たか志